

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590700080		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム守山大門 1階		
所在地	滋賀県守山市大門町114		
自己評価作成日	平成26年10月8日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年1月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田んぼや畑が広がる自然豊かなのどかな環境のもとアットホームで、居心地の良い空間作りをしている。地域との繋がりが、交流を大切にしていきたいと考えているため、美容室や買い物など積極的に地域の利用をしている。また、事業所から家族や地域に向けた便りの発行や祭りなどの行事にも参加させて頂いた。地域の清掃活動へも職員が参加させて頂き、交流ができるように努めている。地域やGHの消防訓練など互いに参加していけるようにしていきたい。地域のボランティアさんにも定期的にきていただき、歌や踊りをして頂いている。地域の方々の多くは、グループホームとはどのような所か？入居者はどんな人か？と分からない、それ以前に興味がない人も多くであろうと感じるが、外に出ることやグループホームでの行事に来ていただくことで少しずつグループホームとは？を浸透させていきたい。地域交流を一步步進めたいと考えている。家庭菜園を家族様も交えて行っている。人員の問題などで必ずしも利用者の希望が全て叶えているとは言えないが、出来るだけ希望に添えるよう各職員が日々話し合い、考え、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から1年が経過した当該ホームは地域との関わりが深められるよう町内会に加入し、地域の祭りや清掃活動などに利用者と共に積極的に参加することで交流のきっかけ作りを行い、歌や踊りなどのボランティアの来訪に繋げています。ホームの秋祭りでは町内会から TENT などの備品を借りたり、地域へ回覧して案内し地域の方の参加を得て開催するなど関わりが少しずつ広がっています。「まんまる笑顔」と掲げた理念の基、家族の協力を得て詩吟の教室に通う方など趣味の継続や役割を持ち本人の思いに添った暮らしの提供など、理念に沿ったケアを考えながら利用者の笑顔を多く引き出せるような支援に努めています。また玄関などの出入り口の施錠は行わず、安全に過ごしてもらうために職員間の連携や見守りを強化し、自由な行動や暮らしを大切にされた支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	洛和会の理念に基づき、自事業所理念を作り、“まんまる笑顔”を大切に、個々の利用者さんのニーズに対応できるように努力している。	開設時にホーム独自の理念を作り利用者が趣味を継続したり、役割を持った暮らしや地域との繋がりがりなど利用者の笑顔を多く引き出せるよう支援に努めています。思いに添ってその人らしく暮らしているかケアの振り返りシートなどを用いて理念に沿った支援を考えながら実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方と顔を合わせた時には積極的に挨拶するようにしている。お祭りにも利用者様と参加したり、地域の清掃活動に職員が参加したり、事業所のお祭りの際には町内のテントや長机を借りたり出来ている。	町内会に加入し地域の清掃活動や祭りに利用者と共に参加したことで折り紙や歌などのボランティアの来訪に繋がっています。ホームの秋祭りには町会からテントなどの備品を借りることができ、回覧板で地域の方に案内し参加を得て開催し交流しています。散歩時に出会った方と挨拶を交わし交流が少しずつ広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや、行事に利用者と共に参加することや買い物や美容院なども近くのところへ行くことを心がけ、まずは職員ともども顔見知りの関係を築けるように努め、徐々に築いていけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には行政、民生委員、家族にもできる限り参加していただき、サービスの実践内容や、現状報告をしている。自治会長にはまだ参加をして頂いていないが、案内や議事録を届けている。	会議は家族や市職員の参加を得て隔月に開催し、地域包括支援センター職員や民生委員の参加を得ることもあります。ホームの状況や取り組み、事故報告などを行い、意見交換をしています。玄関の施錠について意見が出された際には行政の協力を得て資料を準備し、施錠の弊害や職員の見守り体制について説明し理解を得るなど、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	守山市とは、運営推進会議を通して、地域の情報交換や、事業所の運営状況の報告をしている。市長の視察もして頂いた。	運営推進会議には市職員の参加があり、ホームの現状を把握してもらっており、気軽に相談できる関係を築いています。研修や勉強会、交流会などの案内も届き、できる限り参加しています。また勉強会への協力依頼や市長の視察の受け入れなども行い協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全事業所あげて、研修を行うなど、禁止に努めている。しかしながら左記の基準を職員全員が明確に理解出来ていないかもしれないものの、当たり前前に守られる人権である事は理解できている。なお玄関の施錠は、防犯上19時に施錠している。	身体拘束や人権に関する法人研修に参加した職員がホームで伝達を行い周知できるよう努めています。センサーマットの使用や四点柵、言葉による制止など職員には具体的な弊害についても理解できるよう伝えていきます。日中は玄関や庭への出入口の施錠は行わず、職員間で連携して見守り拘束の無い自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、全事業所をあげて、研修を行うなど、職員個々の意識付けを行っている。		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、法人内で、成年後見制度のについての研修をおこない、知識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、説明を行い、疑問点や不安については、お尋ねし、解消できるように努めている。また、介護報酬改定による変更点などもその都度説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には直接的な言動の他、些細な変化から思いをくみ取れる様努めている。家族からは年2回満足度アンケートを行い、意見を聞き、満足度向上に繋げている。各フロアの玄関に、ご意見箱を設け、随時ご意見を聞く体制を整えている。	家族の意見は面会時に利用者の様子を伝える中で聞いたり、介護計画の見直し時や運営推進会議などで聞いています。意見を受けてエアコンの温度を調整したり職員の異動を便りで知らせるなど改善しています。また年に1度法人によるアンケート調査も行われており、意見が出されたり満足度の低い項目については職員間で改善に取り組み家族にも報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行うと共に、会議や面談を通じて、職員の希望を吸い上げ、上長に報告・相談している。職員に対しても、年2回の満足度調査を実施している。また、必要に応じて面談も行っている。	職員の意見は月に1度のカンファレンスの中や朝・夕の申し送り時などに意見や提案を出し合ったり、ホームに課題が生じた際には随時職員間で対応策を話し合っています。職員は積極的に意見を出しており、転倒のリスクへの対応策や勤務時間の調整などを検討し改善しています。また年に1度の職員アンケートの実施や管理者による定期面談の他、職員の様子を見ながら随時相談にも応じており、意見を出せる機会を多く設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の力量評価・面談を行うと共に、適切に職員自身を見極める様に努めている。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を設け、個々の力量に応じた研修をうけ力量アップにつなげている。また、内外問わず、できる限り研修への自主的な参加を実施している。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所とはブロック会議や研修を通じて相互研鑽の場としている。外部では研修を通じての交流を図り、情報共有や学びの場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人や家人から、これまでの生活やこれからの生活への思いや要望を聞きだすように努めると共に、不安もしっかりと受け止め、安心できるサービス提供を行っている。信頼関係作り努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、家族の思いも聞き取り、要望については叶えられるように支援していく。また、GHでできるサービス内容も説明し、できないこと、家人の協力を得なくてはいけないことについても、しっかりと説明を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、家族やケアマネ、相談員と相談して、その方にあったサービス利用を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を含め、生活全体で、共に支え、共に生きる事を念頭において関わっている。利用者と職員は、第一に人間同士としての関係性、信頼関係が構築出来るように努めている。利用者同士の支えあいもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを利用する事により、家族としての関係が希薄にならないよう、家族の関係がより良いものとなるように、本人を中心に関係づくりに努めている。面会にも多数来ていただいている。ホームの行事に参加していただいたりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人・親戚、馴染みの美容室、店など、本人がこれまで付き合ってきたなじみの関係を大切にできるよう、外出の支援や電話・面会の支援を行い、いつでも快く出迎えるように心掛けている。	友人や教え子などの来訪があり居室やリビングの和室などに案内し、寛いでもらえるよう配慮をしています。馴染みの理美容室に通えるよう送迎を支援したり、以前よく行っていた場所などに出かけています。また家族の協力を得て毎週詩吟の教室に通う方や正月など親族の集まりや結婚式などの冠婚葬祭へ出席する方もおり、スムーズな外出に繋がるよう薬や出かけるまでの準備などを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互いに支えあったり、お互いをいたわりあっている。生活を共に過ごす者同士、当たり前に関わりが出来る様、時に職員が間に入りながら自然に関わりが持てるよう支援しています。		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は1名のみ。力になれることがあれば、相談や支援していきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時だけでなく、日ごろの本人との係わりの中から希望を聞き、思いをくみ取るようにしている。できる限り、実行できるように、職員一人ひとりが意識している。チーム内での共有に努めている	入居時には利用者・家族と面談し、これまでの生活歴や職歴、本人の希望などを聞いたり、利用していた事業所の情報なども参考に意向を把握しています。入居後は日々の職員との会話の中や利用者同士の会話や様子からも意向を聞き取るよう努めたり、把握が困難な場合は表情や行動などから思いが汲み取れるようカンファレンスで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、入居後の関わり、本人や家人との話を通じて、把握に努めている。センター方式を活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況把握に努め、変化に早く気付けるように対応している。また、チームでの把握に努め、訪看や医師との連携を出来る限り図っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人や、家族に要望を聞いたり、医療関係者からの指示を入れると共に、職員の日々の関わりからの意見交換を行い、より個々の生活ニーズに即したプランを立案している	アセスメントや利用者・家族の意向の下、本人の楽しみや得意なことなどを取り入れた介護計画を作成しています。初回は3ヶ月、6ヶ月、その後は12ヶ月を目安に介護計画を見直し、見直し時には希望記入用紙を用いて本人や家族の希望、医師や看護師などの意見を聞き計画に反映しています。また見直し前にはモニタリングを行い実施状況の確認と再アセスメントを行い、現状を把握し見直しに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に残し、職員全員で、把握・共有している。また、その記録やカンファレンスでの話し合いから、計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズにできる限りタイムリーにこたえられるように、職員の意識統一を図っている。介護職としての専門性や、グループホームのメリットを活かし、そのときその時の状況に応じて対応できるチームを目指している。		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのなじみの関係が築けるように、地域のお店とのかかわりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の往診医を継続している方や、協力医療機関からの往診医が二週間に一度の定期往診、随時(夜間など)電話での対応や指示を行ってもらっている。また、家族より専門の科を受けたいとの希望があった場合も連携に努めている。	かかりつけ医を継続している方は家族が受診に付き添い、日頃の様子を家族に伝えたり、かかりつけ医宛に文書を作ることもあり連携を図っています。ホームの協力医は2週間に1度の往診の他、緊急時には24時間連絡を取れる体制にあり電話で指示を得たり、随時の往診にも対応してもらっています。また専門医へ受診が必要な場合は協力医に相談したり紹介を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に一度の訪問で、日々の健康状態について、相談し、指示を得ている。また、訪問以外でも随時、電話での相談や対応体制をとってもらえている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とGH相談員が情報交換をし、必要に応じて医師、看護師、作業療法士、理学療法士、家族、利用者、相談員、GH管理者などで話し合いの場を持ち早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針・看取り指針があり家人に説明している。終末期と診断された場合、本人や家族の希望をふまえ、できること・できないことを見極めながら、本人・家族・往診医・訪問看護師・職員で話し合いを行い、支援が可能と判断できれば支援していく方針である。	入居時に看取り指針に基づいて説明を行い、状態に変化があった際には意向を再確認しています。開設1年ですが既に看取り支援の経験があり、家族の意向をその都度再確認し往診医や訪問看護師を交えて話し合いが行われています。職員も方針を共有し職員の疑問にはその都度答えたり、対応方法やいつでも連絡が取れる体制を整えチームで支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時及び定期的に全職員が普通救命講習を受け、対応できるようにしている。また、急変時のマニュアルの把握も日々徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を2ヶ月に1回以上行い、日ごろから、避難方法や通報の仕方などを、確認できる場を持っている。また、火災を起こさないという意識も高め、火の管理を徹底している。地域との協力体制を築くに至っていない。	年間を通して隔月に防災に関する点検や確認などの訓練を繰り返し行い、その内2回は消防署の指導の下夜間を想定し、通報や避難誘導、初期消火などの訓練を利用者と共に実施しています。今後は地域との協力体制作りに向け取り組む予定としています。	地域との協力体制作りに取り組む予定とされています。訓練の開催を地域の方に知らせたり、運営推進会議で議題に上げる事から始められてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応など、一人の人間であるという当たり前の理解を忘れないよう意識し、個々の利用者の人格を大切に対応している。ただしあまり堅苦しくないように、対応・関わりを心掛けている。トイレや入浴など、プライバシーに関わる言葉掛けを特に留意している。職員同士の会話なども、個人のプライバシーに配慮している	法人の人権に関する研修を受講した職員がホームで伝達したり、年2回接遇などの多くの項目からなる自己チェックを行い、個々に日頃の対応を振り返っています。特に排泄時の声掛けは声のトーンや直接的な言葉を避けたり、利用者の情報交換は部屋番号を用いるなどプライバシーや羞恥心に配慮しています。管理者は言葉遣いや対応などを日々の業務の中でも伝え、不適切な対応があれば注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員や他利用者との会話の中で、本人の思いや希望を聴きだし、できる限り叶えられるように支援している。理解できる力に合わせて選択方式などで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の個々のペースに応じてできる限り対応している。そのときの本人の希望や思いを尋ね、関わってけるように支援している。。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服、好きな髪型、お出かけ時のおしゃれなど、一人ひとりの希望に応じた支援を行っている。美容室は入居前からの馴染みの店が近所にあるため行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立時や買い物時に食べたいものを聞いたり、献立を一緒に考えたり、食事作りもできる限り共に行う事を意識して、取り組んでいる	生協への食材の注文から献立や足りない食材の買い物と調理までを利用者に相談しながら一緒に行っています。季節の行事食や外食、弁当やピザを注文したり、おやつ作りや収穫した野菜が食卓に上がることもあります。また盛り付けを工夫し、自助具などを使いながら自分で食べてもらうことを大切にしています。職員も共に食卓に着き談笑しながら食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少ない方には、随時、水分をすすめたり、食事摂取は、その摂取量をチェックシートに記録している。 箸の使用が難しい方にはスプーンを使用してもらうなどの支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後には、口腔ケアの声かけを行い、磨き残しがないかなど支援している。また、訪問歯科医師のケアを受ける機会をもち、アドバイスを受けている。(希望者)		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを職員が把握し、声かけが必要な方には、随時さりげない声かけを行い、プライバシーの確保にも留意している。リハパンやパットの交換が自力では困難な方には職員が支援している	排泄の支援が必要な利用者は記録から排泄リズムを把握し、トイレで排泄ができるよう支援しています。夜間は紙パンツを使用している方も日中は布の下着にパッドで過ごしてもらったり、夜間のみポータブルトイレを使用する方など本人の希望や習慣を大切に支援ができるようその都度職員間で検討し、自立に向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトや牛乳を提供したり、食物繊維の多いもの取り入れるなど、食事の工夫をしたり、体操など生活の中に取り入れ、運動の機会も大切にしている。必要に応じて、下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や希望など、個々の利用者の希望に沿って提供できるように努めているが、前日入っていない方から声掛けをしている為、全ての思いに答えることは出来ない。コミュニケーションやタイミングなど誘い方の工夫を行い、環境面も含め、できる限り快適で楽しく入浴できるよう心掛けている。無理強いはしないようにしている。	入浴は概ね週に2回以上は入れるように支援し、間隔の空いている方から声をかけ入ってもらっています。柚子や金柑などの季節湯や入浴剤を入れたり、一人ずつ湯を入れ替え気持ち良く入ってもらっています。入浴を拒む方には時間をおいて声を掛け工夫しながら入浴に繋げています。また希望に応じて同性介助にも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠れなかった方には日中の休息時間を大切にしたりしている。また、夜間もできる限り安心して眠っていただけるよう、室温や声かけ、巡視時の対応に留意している。畳部屋の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬表を各職員が参照し、理解を深めることに努めている。医師や看護師から指示があった場合は記録に残し、対応している。変化が見られた場合は医師や看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方には料理を教えていただいたり、読書や家庭菜園や花の世話、歌など、個々の得意な事を引き出し、日々生活の中に張り合いや喜びがあるように支援している。気分転換に、散歩や喫茶、買い物などにも出かけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった場合にはできる限り、外出の支援が出来るよう心がけている。人間的な理由などにより、全ての希望に添えてはいえない。	気候が良い時期は周辺を散歩したり、隣接する神社へお参りや買い物などに出かけています。桜や紅葉狩りなど季節に応じた花見や地域の催しなどの他、外出行事によっては家族にも声をかけ一緒に外出を楽しんでもらっています。また希望を聞いた個別外出や広いテラスや玄関先で外気浴などを楽しみ気分転換をしてもらっています。	

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望・力に応じて支援するように努めている。金庫で預かっているが、外出時に希望があった場合はすぐに出せるように対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には家人や知人への電話や、ハガキ・手紙のやり取りを支援している。家人からもはがきが届いたりし、遠方の家人ともコミュニケーションが図れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、作品を飾ったり季節感を出せるように心掛けている。。温度・室温もエアコンや換気を行い、利用者に合わせて大きくなりがちなTVの音量についても字幕を出したり配慮した空間づくりを心掛けている。	共用空間は正月の飾り付けや利用者で作成した干支の切り絵などを飾り、季節を感じてもらえるよう工夫をしています。一人で過ごせる空間や気の合った利用者同士が過ごし易いよう目線にも配慮したテーブルやソファの配置を工夫しています。またテレビの音量や職員の声の大きさにも留意しながら、生活感のある中で寛いで過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり、ソファやテーブル席を離したりと、居室以外にもほっこりできる空間を提供している。生活の中で自然と動きがあるように空間の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭からなじみの家具を持ち込んでいただいたり、趣味で制作した作品を飾ったり、家族との写真を飾ったりと、本人や家族と相談しながら、今までいた環境に近づけるよう、居心地の良い空間作りに努めている。	入居時には家具や布団、衣類などは今まで使っていた物を用意してもらうよう伝え、利用者はベットやタンス、冷蔵庫などが持ち込まれ家族と相談しながら安全に過ごしやすいよう配置をしています。家族の写真を飾ったり、趣味の詩吟の本などを持参する方や床に座って過ごしたい方などは希望を聞きながら生活習慣に合わせて過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできること・できないことの把握に努め、職員がやってしまうではなく、できる限り、できることはしてもらい、できないところはさりげないお手伝いを行っている。自主的に行えるものを置いている(掃除や新聞取り)		